



ASSOCIATION FOR RENGEIN TANJOJI
INTERNATIONAL COOPERATION.

認定特定非営利活動法人
れんげ国際ボランティア会

みろくの風

Vol
79



学校の改善、地域の改善に喜ぶカルワリ(インド)の子ども達



- contents -

目次

- インド事業報告 2
れんげ国際ボランティア会事務局
- 現地新聞(インド)紹介 3
(当会の活動取材したインドの新聞の和訳)
- 現地団体紹介 4・5
CURE副理事長: シダース・パンディ
- お知らせ 6

自らの手で未来づくり

事務局長・久家誠司



たびたび会合の機会を持ち、これまで何となく感じていた問題や課題を具体的に認識し、さらに話し合っ解決の糸口を見つけて、小さくてもできる所から改善していくことで未来を拓いていけるはず。 (地域創りを目指す女性達と共に)

のでしょうか？
起源に関して諸説有りますが有力な説としては、紀元前三〇〇〇年前後（インド文明の栄えた頃）からインドにはドラヴィタ人という民族がいます。紀元前一五〇〇年頃になると肥沃な土地を求めてアリア人と呼ばれる遊牧民の一派がそこに移動してきて先住民であるドラヴィタ人を支配しました。支配者と被支配者の間には当然差別が生まれます。「人権」などという考えは、微塵も存在しない時代であり、当時は命さえも顧みられない苛烈な差別もあったことと考えられます。これがカーストの起源です。

カースト制度の由来

インドにおいて現在も社会的に大きな影響を及ぼしているのがカースト制度です。例えば下位の「穢れる（けがれる）」という理由から、食べ物の産業においては従事できないこともあります。また職業に限らず、恋愛や結婚などあらゆる面においてインド社会はカーストの影響があります。

さて、この差別制度であるカーストは一体どのようなようにして生まれたのでしょうか？

現代の生活にまで深く関わっていることはとても残念なこと、カーストは「人類の敗北」とまで

「コミュニティづくり

言う学者もおり、深刻な事件は今も様々な形で数多く起きています。現在カーストに関する「差別行為」や「差別用語」は禁止されていますが、カーストそのものには禁止対象とはなっていないのです。「カースト制度を無くせばインドが崩壊する」という意見が根強く残っており、なかなか制度撤廃には至っていません。

私達 ARTIC はそんな差別が色濃く残るアグラのカルワリという地域で、教育や衛生環境の改善については生活全般の改善を目指す事業を行っています。具体的には学校、上水施設や排水設備の建設を地域全体に計画的に進めています。しかし、これらの立派な設備を作ったとしても、20年、30年すればいずれ老朽化して壊れてしまいます。

そもそも立派な建物を作っただけでは地域は良くなりません。そこで私達は地域の人々に、管理組合組織の設置を呼びかけました。これまでこのような経験のなかった人々でしたが、説得と話し合いにより納得してもらって、組合の設立が実行されました。ややもす

れば、「寄附しつぱなし」、「作りつぱなし」になり、元の木阿弥（もとのもくあみ）になりがちな途上国への支援ですが、衛生の重要性やそのための設備維持の大切さを住民達に理解してもらうことで、自助努力による地域の持続可能な管理がなされていくことになると思います。彼らにとつてもコミュニティづくりの良い経験になることと思います。

当会では「自助なきところに支援なし」の理念のもと、ご寄付頂いた皆様の意思が有意義な形で実施継続されるよう努力しています。住民達が自分たちの境遇を嘆くばかりではなく、わたしたちのような海外の NGO の手助けをきっかけに、少しでも自分たちで明るい未来を切り拓いていく端緒となることを願ってやみません。



進む排水設備の整備（整備の前後）

「いつになったら勉強に來られるの?」と、落成間近になったカルワリ公立学校に足を踏み入れたデヴ君、ラジージュ君、グングン君の3人は、興奮に満ちた目で尋ねました。彼らの熱意は、この学校を模範校へと変貌させた変革の精神を反映しています。

日本のNGO・ARTIICは、CURE India(現地NGO)と協力し、カルワリ校の施設整備を支援しました。主な整備内容は、新しい多目的ホール、20台

新聞①の内容



新聞①

カルワリ小中学校改修事業に関する報道記事
Janik Jagran(ダニク・ジャグラン誌)
2025年4月15日付
読者7,000万人を誇るインドナンバーワンの新聞

当会がインドの貧困地区で進めている学校施設などの改善事業は、現地に於いて大きな話題となつています。その先進性に関して現地新聞数社が大きく取り上げてくれました。記事の内容をご紹介します。



新聞②

Janik Jagran(ダニク・ジャグラン誌)
2025年6月24日付

のコンピューターとプロジェクトを備えたコンピューター室、子供に優しいトイレ、図書室など、活気に満ちた環境です。学校には雨水収集システムと汚水処理施設も設置され、飲料水や植栽に使う水として再利用できるようになりました。

開校式に先立ち、ARTIIC Japanの代表である伊藤重剛氏、久家誠司氏、小川幸氏が学校を訪問し、準備状況を視察し、万全の体制を整えました。

※ARTIIC(れんげ国際ボランティア会)、CURE India(現地協力団体キュア)

新聞②の内容

カルワリ地区の新しく改修された学校では、子どもたちは教科書を学ぶだけでなく、節水に関する重要な学習を行っています。学校では、CURE Indiaと日本の団体ARTIICの支援を受けて、雨水を効果的に利用するための最先端の雨水収集システムが設置されました。この地区は地下水の過剰利用地区に該当するため、この取り組みは大きな意義があります。

新聞③の内容

このシステムは学校の屋根から雨水を集め、パイプを通して校内の3万リットル地下貯水タンクに送ります。タンクが満水になると、溢れた水は、消毒して飲料水になり4つの雨水槽に送られ、地中に浸透して地下水位を補充します。

施設が立派な私立学校でさえ、この学校と比べると見劣りします。この公立学校は、日本



新聞③

Hindustan(ヒンドウスタン誌)
2025年9月2日付
首都ニューデリーを中心として320万部が読まれているクオリティー誌

の団体ARTIICとテリーの団体CURE Indiaの尽力により、目覚ましい変貌を遂げました。両団体の支援により、この公立学校の様相は一変しました。

現在、キャンパスにはコンピューター室、多目的ホール、近代的な厨房、スマート教室、そして斬新な8つの子供専用トイレが整備されています。建設には日本の技術が活用されており、この学校は優れた学校として際立っています。

施設の魅力が高まり、以前は私立学校に通っていた子どもたちが入学を希望するほどになっており、すでに多くの新入生が入学しています。

先日には、シヴァム共同治安判事とジテンドラ・クマール・ゴンド地区基礎教育担当官(BSA)が学校を訪問し、質の高いインフラと革新的な設備に感銘を受けました。

私達アルティックが現地で活動を行う際、現地の人々の心情や生活習慣、利害関係などを知る必要があります。それらを熟知するのが現地のパートナー組織です。

このたびは当会のパートナー組織であるCURE Indiaの副理事長に活動の意義などを語っていただきました。

アルティック事務局

信頼のおける

日本のパートナーと共に

CURE 副理事長・シダース・パンディ

CURE 概要

私達CUREの掲げる使命は、地域の価値や特性を重んじ、住民を都市計画の主役に据え、地元住民の真のニーズに応えるものとなるよう努めることです。住民と都市システムを結びつけ、住民の様々な情報に基づいた意思決定を行うことです。それにより、柔軟性があり、困難を乗り越えて公平かつ住民のためになる都市を構築することができるとです。

CUREは広い意味での生態系に基づく考えや方法にも通じています。住宅、水、衛生、医療、教育、環境、そして生活におけるサービスとインフラの整備に取

り組んでいます。具体的には簡易水道システム、家庭用トイレ、雨水利用と地下水涵養、帯水層涵養などの整備をしています。自然に基づく問題解決を目指し、地域の社会的・生態学的状況や要求に合わせています。

またCUREはコミュニティが受動的な受益者ではなく、地域問題解決の協働者となるため研修やミーティングを行い、スキルアップを図っています。特に、持続可能な都市生活を促進するために、女性や若者にスキルトレーニングを支援しています。

現在のインドの状況

インドは豊かな文化、確固たるコミュニティの価値観、そして

大きな可能性を秘めた国です。しかしながら、経済発展の恩恵の分配は依然として極端な不平等があります。人口のごく一部が富の大部分を握る一方で、何百万人もの人々が、特に農村部や都市部の居住地域では、質の高い教育、清潔な水、医療、そして安全な住居がないまま暮らしています。

カーストに基づく差別は法的に禁止されているにもかかわらず、依然として多くの人々の機会を制限しており、ジェンダー不平等は深刻な課題であり、特に教育、安全、そして社会的自由への障壁に直面しており、少女たちにとって深刻な問題となっています。

急速な都市化はこれらの問題をさらに深刻化させ、劣悪な衛生状態、共同トイレ、安全でない飲料水、そして管理されていない廃棄物を伴う過密なスラム街を生み出しています。こうした状況は、子どもたちの健康、教育、そして将来の見通しに深刻な影響を与えるだけでなく、女性の尊厳と移動を制限しています。

こうした状況において、アルティックとのパートナーシップは時宜を得たものであり、かつ変革をもたらすものでした。私たちは「れんげ国際ボランティア

ア会」と共に7州の13の村と集落で協力し、水・衛生インフラの改善、学校の強化、医療へのアクセス拡大に取り組みできました。これらの取り組みは、単なるサービス提供にとどまりません。尊厳の回復、地域社会の主体性の構築、そして長期的で人間中心の変化の創出などへの取り組みとなっています。

ARTICとの協働はインドにおける参加型開発を確実に実現しています。



子ども達に未来の夢を聞くシダース氏(正面中央)

アルティックと共に 行ってきた活動の 社会的影響

アルティックとのパートナーシップは、都市や地域の開発において非常に意義深く、先見の明のある道のできた。

アルティックは、私がかれまで共に仕事をしてきた国際機関の中で、プロジェクトへの資金提供だけでなく、現場で積極的に関与し、特にインドの都市周辺部や農村部における不可欠な WASH（水、衛生、衛生設備）、インフラの構築に尽力してきた初めての組織です。計画から実施、モニタリングに至るまで、アルティックの実践的なアプローチは、他とは一線を画しています。

私たちの協力は二〇一八年に始まりました。当初はインドと日本の組織の業務文化やマネジメントスタイルの違いによる課題もありましたが、すぐに強い相互理解を築くことができました。それ以来、私たちのパートナーシップはより強固で、より調和のとれたものへと成長しました。7州13の村や集落に住む一六、〇〇人以上の人々に支援を提供し、チベット人とインド

人の両方のコミュニティに貢献してきました。

アルティックの最大の強みは、システム思考アプローチにあります。そのため協働プロジェクトはインフラ整備にとどまらず、能力開発、組織間の強固な連携、そして政策への関与も組み合わせています。すべての取り組みは地域社会の真のニーズに根ざし、地方自治体、教師、医療従事者、そして選出された代表者との協働によって構築されています。このモデルは、地域社会への愛郷心、説明責任、そして長期的な持続可能性を確保し、活動を地域システムに根付かせることで、永続的な影響を生み出します。

私達 CURE はアルティックとのプロジェクトを通して、コミュニティの住民たちから感謝と称賛に満ちた圧倒的な反響を目の当たりにしています。保護者たちは感謝の言葉をかけ、この活動が自分たちの人生にどれほど深く影響を与えたかを語ってくださいました。長い間、衛生設備の利用に苦労してきた高齢の女性は、病院のトイレを快適に使えるようになったことに感激し、涙を流しました。彼女の心からの喜びの言葉は、忘れられないほど心に響きました。

事業地の一つアグラのカルワリの村人たちは、これほど質の高い活動は人生で見たことがないと語り、私たちに感謝の意を表してくれました。ある学校の校長先生は、公式ドキュメンタリーの中で、「この団体のおかげで、私たちの学校がこんなに美しく、手入れの行き届いた状態になるなんて想像もしていませんでした」と語っています。

教師たちは、変貌した学習環境に感銘を受け、毎日学校に通うことに誇りを感じていると語りました。カルワリの学校の生徒たちは、新しく設置された清潔なトイレを特に喜んで利用しています。彼らは、衛生の重要性を理解し、トイレを自分たちのものとして大切に使い、今後ともトイレを清潔に保つという強い決意を示しています。

村の住民や関係者は皆、この事業に喜びの言葉を述べ、心からの称賛の意を表しました。

多くの地域住民は、この事業の質が維持されることを願っており、継続的な努力によって村がより清潔で健康的になり、誰にとっても尊厳のある場所になるだろうと喜んでいきます。



地域住民、生徒、先生達との活発な啓発活動を重ねています

**あなたのご寄付は、困難な状況にある人のために使われた後に
あなたのもとへ戻ってきます！！**

(3万円寄付すると最大で14,000円が戻ってきます)

当会は厳しい審査を受けた「認定NPO法人」です。
よって当会へのご寄付は**税金控除**の対象となります

●個人の場合

①所得税 (寄付金額-2,000円) × 40% (税額控除型)
※但し所得税の金額の25%が限度です。

②住民税 (寄付金額-2,000円) × 10%

例えば、30,000円ご寄付頂くと①と②で最高**14,000円**が戻ってきます。

●法人税の場合 (特別損金として算入することができます)

～個人、法人ともに控除のためには確定申告が必要です。

詳しいことは最寄りの税務署や税理士さんにご相談ください～

◆◆ご寄付のお願い◆◆

- ①インド貧困地域の学校設備や地域衛生の整備 …… 1口：5,000円
(教室やトイレの整備。地域住民のための飲み水、下水設備の支援)
- ②チベット難民支援 …… 1口：5,000円
(チベット難民居留地における病院や学校などの衛生環境の整備、水設備の充実)
- ③おまかせ募金 …… 1口：5,000円
(ニュースレターの作成やネット環境の整備など、会を下支えするための大切なご寄付です。)

※ゆうちょ銀行のオンライン振込でラクラク送金

**オンラインでも
ご寄付いただけます**

銀行名	ゆうちょ銀行
預金種目	当座
店名	一七九(イチナナキュウ)店
口座番号	0107858

このニュースレターは(認定NPO法人)れんげ国際ボランティア会の季刊誌です。名刺の交換をさせて頂いたり、その他ご縁のあった皆様に、アジアの情報や当会の活動をお伝えするために、お送りさせて頂いております。ご不要の方はその旨お知らせ頂ければ送付を止めさせて頂きます。もし差し障りがなければお付き合い頂ければ幸いに存じます。

第79号 2025年(令和7年)11月

季刊/みろくの風(れんげ国際ボランティア会会報)

発行人/川原英照

住所/〒865-0065

熊本県玉名市築地2288

電話/0968(73)4851

◇各種お問い合わせ◇

(認定NPO法人)

れんげ国際ボランティア会

<http://reng.e.asia>

e-mail artic@reng.e.asia [@reng.artic](https://www.facebook.com/reng.artic)